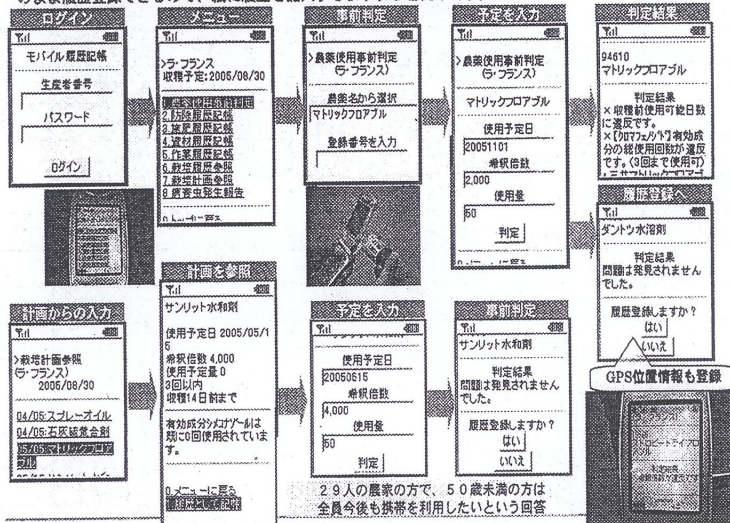


農薬ナビでリスク管理

携帯電話による事前判定と履歴記帳

携帯電話では場から簡単に履歴入力できます。散布前に適正な使用か判定も行えます。防除計画からそのまま履歴登録できるので、紙に履歴を記入するよりずっと簡単です。



2.9人の農家の方で、50歳未満の方は全員今後も携帯を利用したいという回答

農薬使用リスクを最小化し、適正な農薬使用を支援し、農薬リスク管理システムの開発実証を行っている農薬適正使用ナビゲーションシステム協会（会長＝町田武美・茨城大学教授）は16、17日の2日間、山形県天童市で実証検討委員会を開催し、JA向け業務用システムの有効性と実用性を評価した。すでにJAてんどうでは、9、10月にラ・フランス（3200ト、1万個）を使った現地実証試験を実施、システムの有効性が検証されている。今後は、流通段階のトレーサビリティシステムとの連携の実証や、GAP先進農家グループ向け業務用システムの現地実証試験を予定している。

ラ・フランス
ンス使用

JAてんどうで実証

22

農薬ナビを活用した農薬使用リスク管理システムの開発実証事業は、農水省の平成17年度ユビキタス食の安全・安心システム開発事業で採択された8課題のうちの一つ。システムは①農薬誤使用事前防止機能②農薬適正使用履歴自動記帳③効果的な農薬使用方法提示機能の3つを特徴として

いる。農業・生物系特定産業技術研究機構中央農業総合研究センターが開発した「農薬適正使用ナビゲーションシステム（農薬ナビ）」の研究成果を、JAや先進農家グループなど業務向けに活用したもの。

①農薬誤使用事前防止機能は、農薬取締法の法定基準だけでなく、県やJA、流通業者が独自に設定したルールにも対応でき、防除計画作成時、農薬の購入時や使用時、出荷時など多段階での判定と現場警告を可能にした。

②農薬適正使用履歴自動記帳機能は、適正使用判定と現場警告に携帯電話を使い、5W1H（いつ（日時）どこで（場所、農薬庫）だれが（作業者）何を（農薬登録番号など）どのように（農薬使用基準、作業状況など）なぜ（病害虫雑草）を含めた農薬使用・栽培履歴情報を自動記帳する。

③効果的な農薬使用方法提示機能は、病害虫発生・農薬使用状況のリアルタイム分析と効果的な農薬使用方法の提示を行う。天童での現地実証実験では、JAてんどう作成の防除基準の判定、OCR履歴記帳用紙での農薬判定と履歴データ取り込み、携帯電話による農薬の判定と履歴記帳・取り込みをした。農薬適正判定では、農家620人の判定を行い、収穫前日数違反にならないように農家に収穫を延ばすよう指導でき、これまで人海戦術で行っていたJA担当者を目視による判定が短時間で

正確に行えた。携帯電話の利用は、履歴を紙に書く必要がないことや、散布前に事前判定できるため、ラ・フランスだけでなくサクランボでも行いたいという評価が出た。

12月からは横浜市場を経由する流通段階でのトレーサビリティとの連携実証を行い、同時に先進農家グループ（千葉県の和郷園、青森県の片山りんご園）向けの現地実証実験も進めていく。さらに全国農業協同組合連合会山形県本部と連携・協力して山形県下のJAに対して本システムの導入を推進し、全国のJAに対して支援活動も始める。